

arou / 自分と物の距離を整える家具

Reimagining The Distance Between The User and Everyday Objects

大石 有彩



自分中心に片付けるための家具

よく使うものはより近くに、使わないものは遠くに。自分と物の距離を適切に整えると、よりたくさんの物を使いこなすことができる。使用頻度が高く、自分から近くに置きたい物を、生活の中での人と物の動きから3種類に分類し、それぞれに馴染む三つの家具を制作した。

Furniture With A Focus To Clean Up Around The User

When you organise your possessions based on the amount you use them, you can live far more efficiently. Based on the movement of people and the objects in their daily lives, I have classified the most used objects into three categories and created three pieces of furniture that align with each category.



arou は「生活の中の仮置きでもちゃんと片付けになればいいのに」という思いから生まれた。物の種類でしまうのではなく、自分の使用頻度から配置する。使わない物は遠くに、いつも使う物はより近くに。物中心ではなく、自分中心の片付けのための家具。自分との距離の遠い物をしまうための壁に沿って配置する現在の棚を大家具と定義し、今回デザインした、より距離の近い物を置く独立配置型の家具を小家具・中家具と定義して制作を行った。



↑「人が動いて物が動かない家具」

化粧品など、ひとつの行為でたくさんの物を使う場合に使用する家具。5mmの深さに凹みをつけることで使い途中の物と片付けてある物がわかりやすく、簡単な動作で片すことができる。1日に1回程度の使用頻度のものを収納する中家具。

←「人も物も動かない家具」

普段座っている位置に置いておきたい使用頻度の最も高い物を置くための小家具。天板では軽作業ができ、上段、下段で段の幅が異なっているため、使用用途によって分類できる。



↓「人も物も動く家具」

外から帰ってきた際に着ていたアウターをかけた後、普段使っているリュックなどを置くことのできる中家具。両壁と棒の3箇所にあウターなどをかけることが可能。使用頻度は上の中家具と同じく1日に1回程度。